

2022年3月期 第4四半期 決算の概要

2022年5月19日

株式会社今仙電機製作所

東証プライム・名証プレミア 証券コード：7266

I. 2022年3月期 第4四半期決算概要

取締役 執行役員 堀部 修一

II. 2023年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員 堀部 修一

III. 事業トピックス

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

IV. 配当

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

I . 2022年3月期 第4四半期決算概要

取締役 執行役員 堀部 修一

II . 2023年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員 堀部 修一

III . 事業トピックス

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

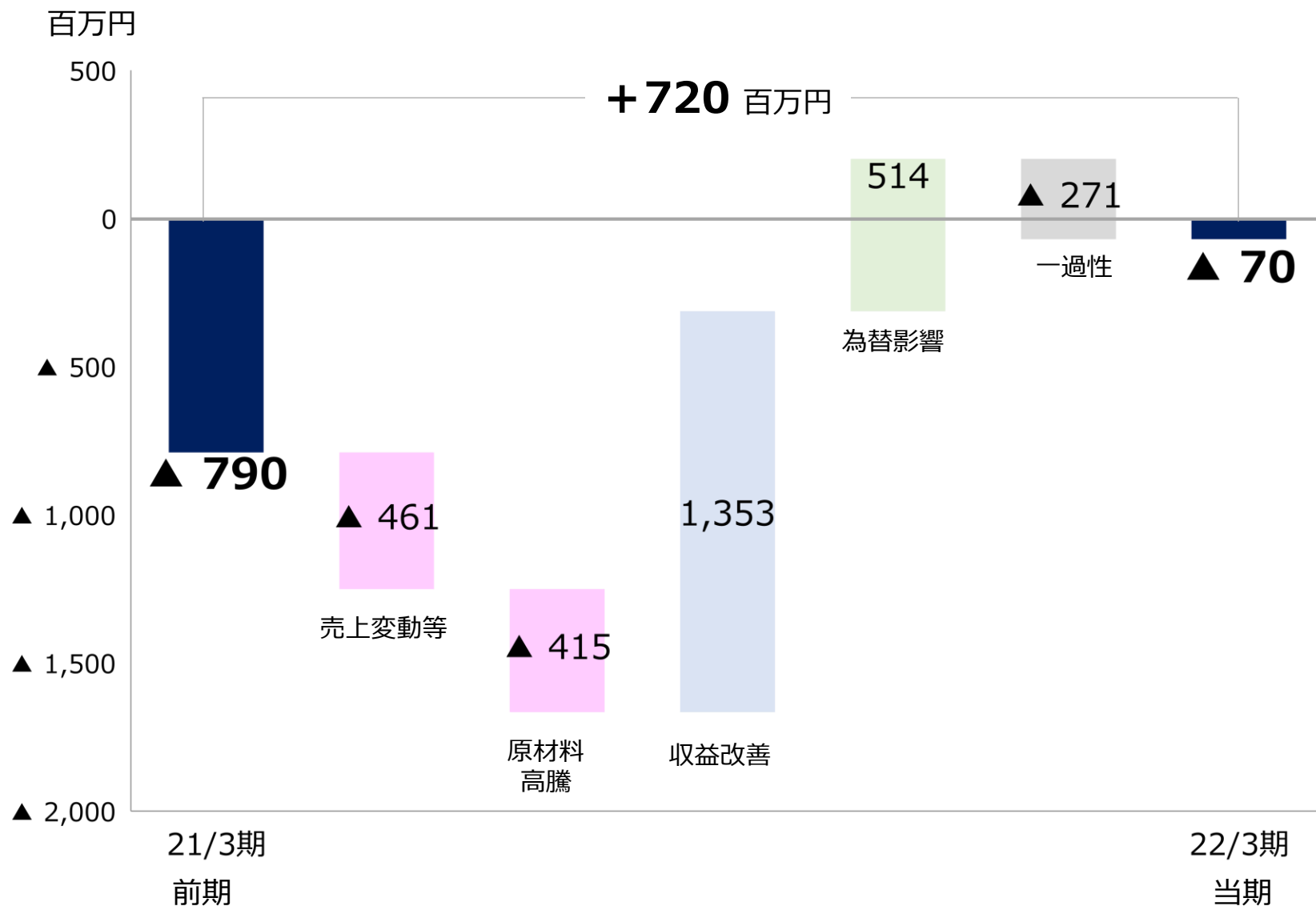
IV . 配当

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

単位：百万円	前期 (21/3期)	当期 (22/3期)	増減額	増減率
売 上 高	87,096	85,155	▲ 1,941	▲ 2.2%
営 業 利 益	▲ 790	▲ 70	720	—
経 常 利 益	▲ 581	616	1,197	—
当 期 純 利 益	▲ 3,081	▲ 1,210	1,871	—
配 当	15円	15円	0円	—

為替

USD : 前期 106.76円 → 当期 109.90円
 CNY : 前期 15.48円 → 当期 17.04円
 THB : 前期 3.42円 → 当期 3.44円

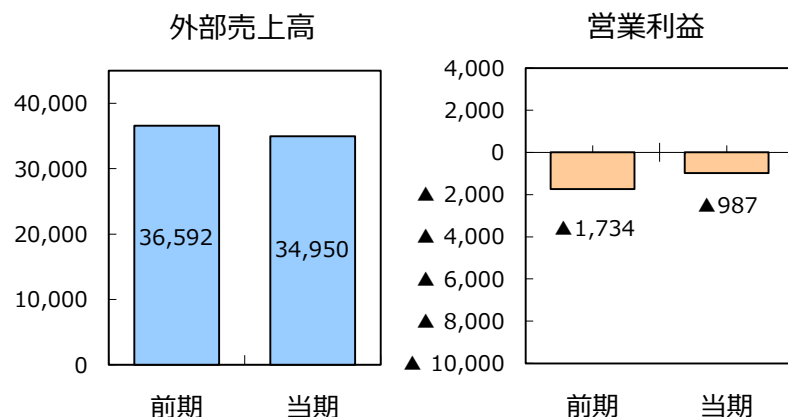


2022年3月期 セグメント別実績

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

国内



売上高

前期差：▲1,642 (▲4.5%)

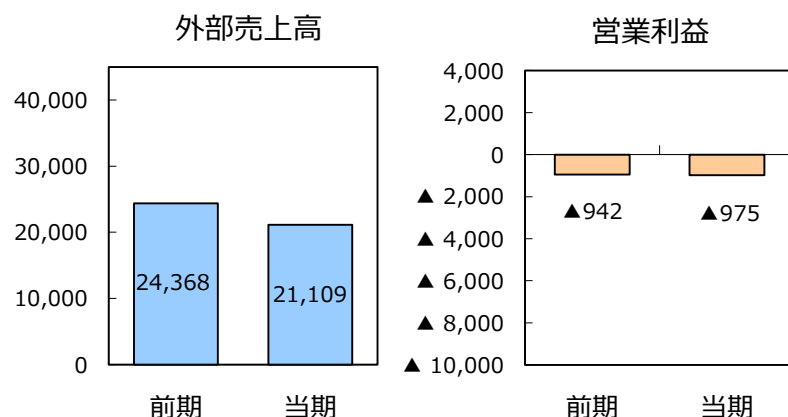
自動車事業において、半導体不足およびそれに伴う客先工場稼働停止の影響により、前期に対して生産減少となりました

営業利益

前期差：+747 (－%)

労務費および諸経費抑制に努めたことで営業損失は縮小しました

北米



売上高

前期差：▲3,259 (▲13.4%)

半導体不足およびそれに伴う客先工場稼働停止の影響により、前期に対して生産減少となりました

営業利益

前期差：▲33 (－%)

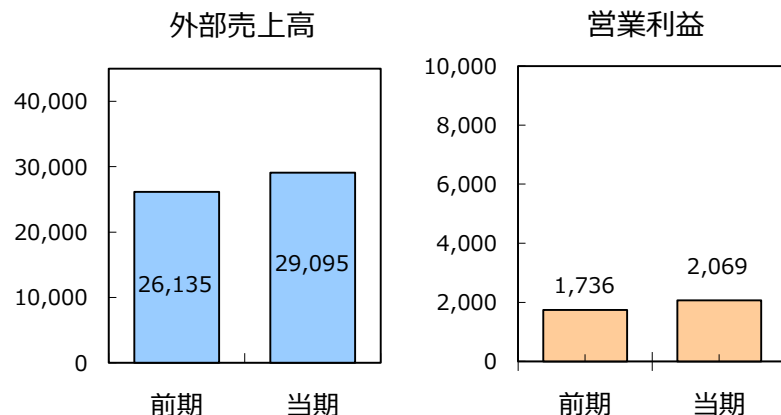
大きな減収影響があったものの、ロボット化等による原価改善および固定費抑制を進めて損失の抑制に努めました

2022年3月期 セグメント別実績

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

アジア



売上高

前期差：+2,960 (+11.3%)

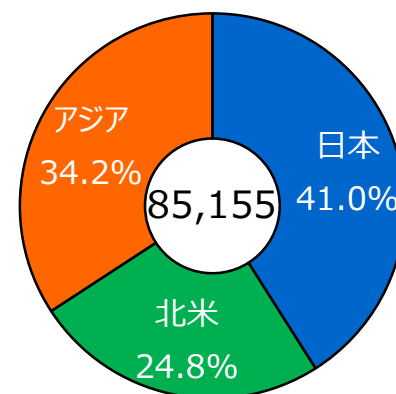
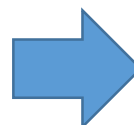
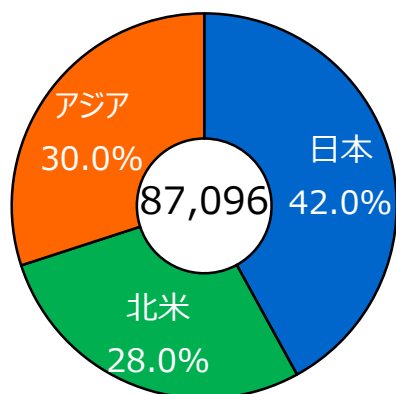
タイにおいて東南アジア向けが前期からの生産回復したことおよび中国元の為替変動の影響により増収となりました

営業利益

前期差：+333 (+19.2%)

増収効果および中国・タイにおける原価改善により増益となりました

事業の地域別 売上高構成



前期

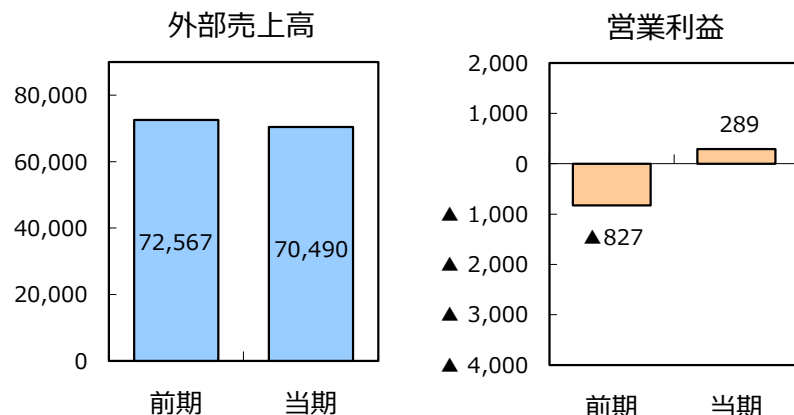
当期

2022年3月期 事業別実績

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

シート・電装事業



売上高

前期差：▲2,077 (▲2.9%)

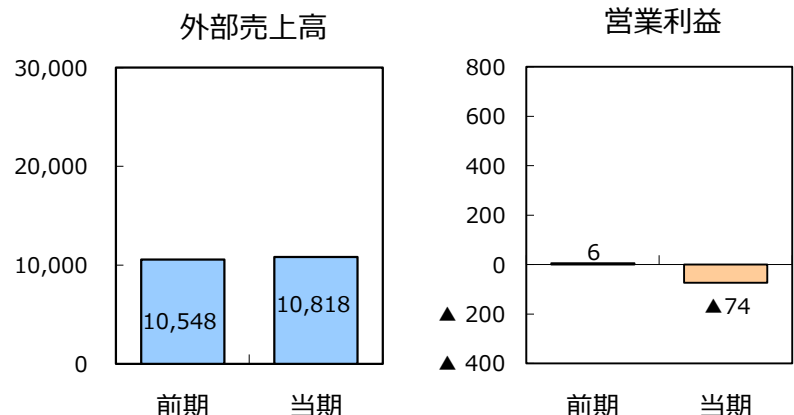
北米における半導体不足およびそれに伴う客先工場稼働停止の影響により前期に対して生産減少となりました

営業利益

前期差：+1,116 (－%)

諸費用抑制およびロボット化等による原価改善を進めたことで黒字化しました

電子事業



売上高

前期差：+270 (+2.6%)

ほぼ横ばいで推移しました

営業利益

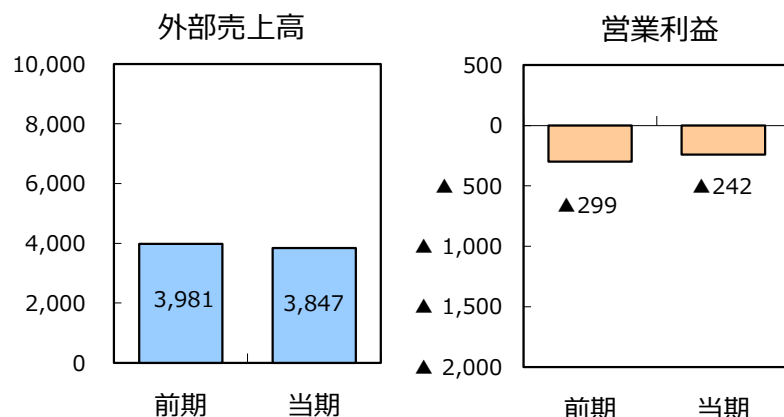
前期差：▲80 (－%)

将来に向けた開発費負担および試験設備の導入によるリース費用増加により減益となりました

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

新事業



※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。

売上高

前期差：▲134 (▲3.4%)

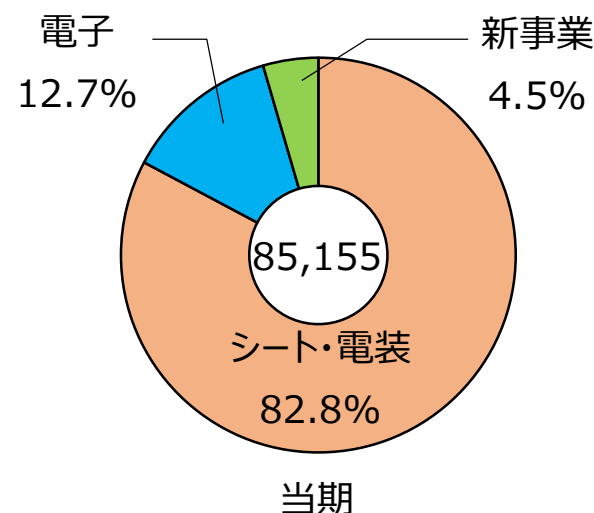
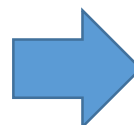
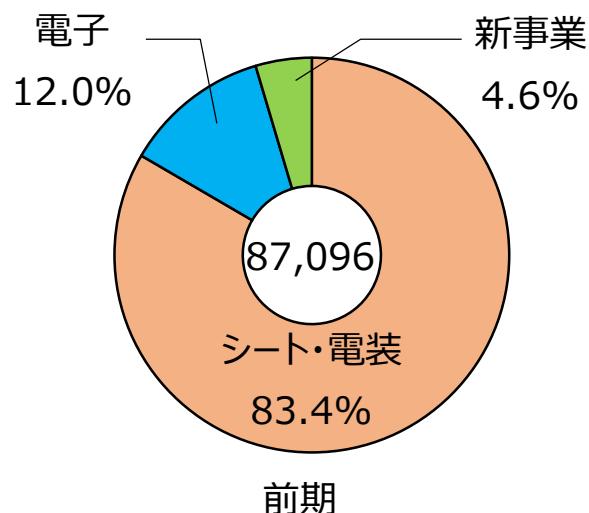
工作機械向けハーネス事業および画像処理事業で増加しましたが、航空機・宇宙関連向けのハーネス事業は新型コロナウイルスに伴う需要減少により生産減少となりました

営業利益

前期差：+57 (－%)

工作機械および画像処理の増収効果に加え、諸経費抑制に努めたことにより営業損失は縮小しました

事業の種類別 売上高構成



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

設備投資

	前期 (21/3期)	当期 (22/3期)	増減額
国内	1,537	1,706	169
北米	296	1,204	908
アジア	1,579	1,037	▲ 542
合計	3,412	3,947	535

- ・国内
電子事業強化のため、広島第2テクニカルセンターを建設しました
岐阜工場に太陽光発電を導入しました
- ・北米
新製品立ち上がりに伴い設備、金型費が増加しました

減価償却費

	前期 (21/3期)	当期 (22/3期)	増減額
国内	2,374	1,902	▲ 472
北米	324	869	545
アジア	1,184	1,100	▲ 84
合計	3,882	3,871	▲ 11

- ・国内、アジア
前期の投資抑制により、減価償却費が減少しました
- ・北米
新製品立ち上がりに伴う設備、金型の減価償却費が増加しました

I . 2022年3月期 第4四半期決算概要

取締役 執行役員 堀部 修一

II . 2023年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員 堀部 修一

III . 事業トピックス

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

IV . 配当

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

単位：百万円	当期 (22/3期)	今期予想 (23/3期)	増減額	増減率
売上高	85,155	96,700	11,545	13.6%
営業利益	▲ 70	100	170	—
経常利益	616	330	▲ 286	—
当期純利益	▲ 1,210	▲ 930	280	—
配当	15円	15円	0円	—

為替

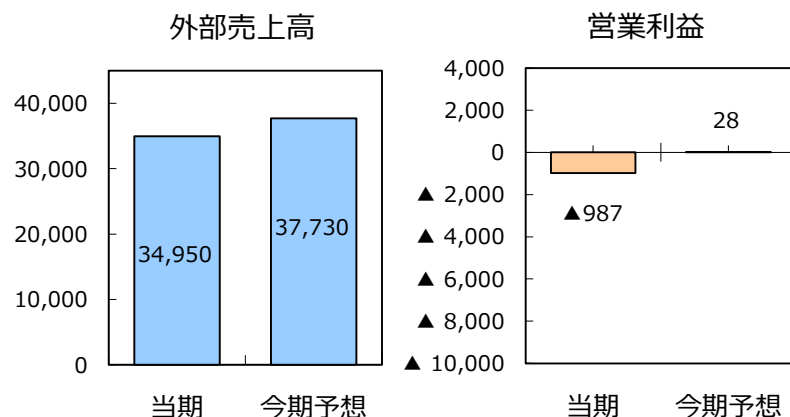
USD : 当期	109.90円	→	今期予想	120.00円
CNY : 当期	17.04円	→	今期予想	18.80円
THB : 当期	3.44円	→	今期予想	3.60円

2023年3月期 セグメント別予想

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

国内



売上高

当期差：+2,780 (+8.0%)

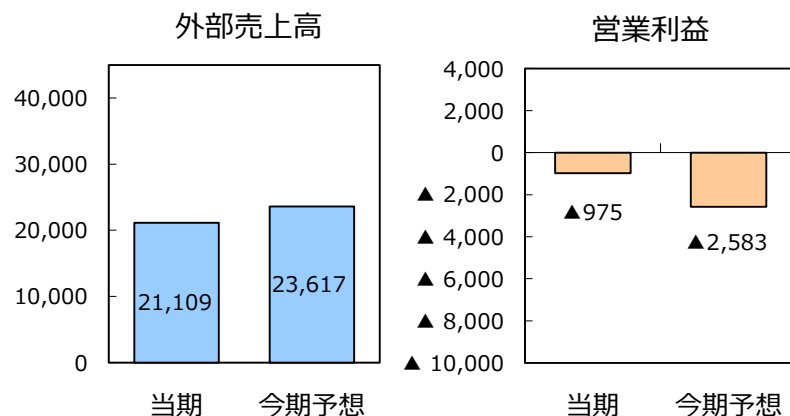
自動車事業において、前期からの生産回復により増収となる見通しです

営業利益

当期差：+1,015 (-%)

増収効果および製造での収益改善推進により増益となる見通しです

北米



売上高

当期差：+2,508 (+11.9%)

モデルチェンジ等による生産増加により増収となる見通しです

営業利益

当期差：▲1,608 (-%)

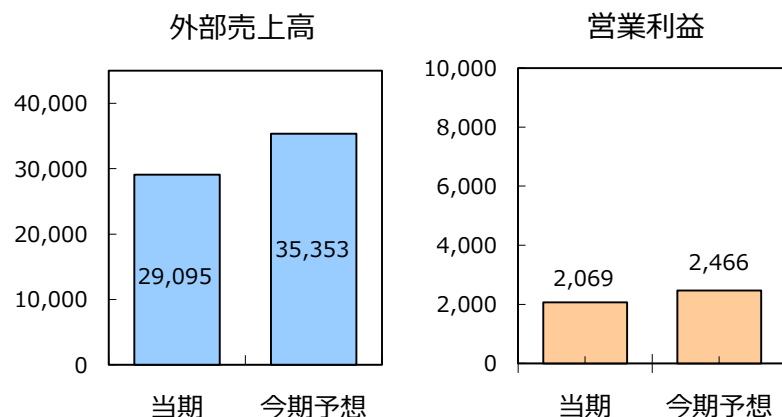
港湾混乱によるエア便対応および海上輸送費高騰が大きく影響することにより減益となる見通しです

2023年3月期 セグメント別予想

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

アジア



売上高

当期差：+6,258 (+21.5%)

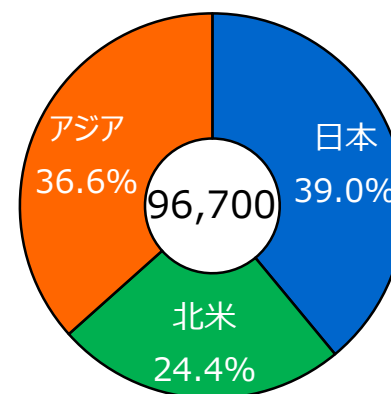
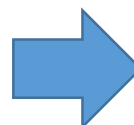
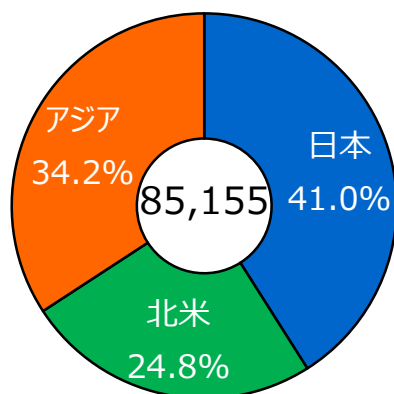
中国・タイを中心に生産増加により
増収となる見通しです

営業利益

当期差：+397 (+19.2%)

増収効果および諸経費抑制の推進により
増益となる見通しです

事業の地域別 売上高構成

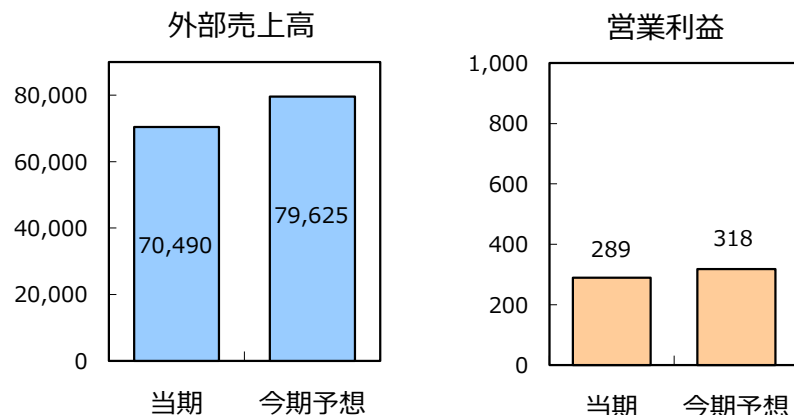


2023年3月期 事業別予想

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

シート・電装事業



売上高

当期差：+9,135 (+13.0%)

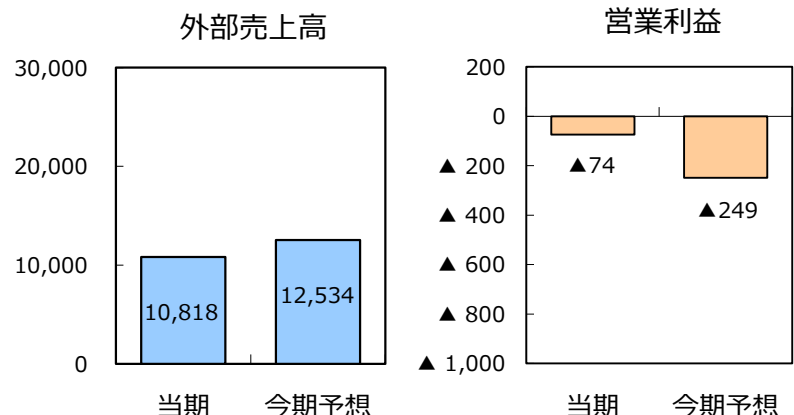
国内およびアジアでの生産増加により増収となる見通しです

営業利益

当期差：+29 (+10.0%)

増収効果より増益となる見通しです
一方で北米を中心とした港湾混乱によるエア便対応および海上輸送費高騰の影響を見込んでいます

電子事業



売上高

当期差：+1,716 (+15.9%)

新モデルへの搭載等による生産増加により増収となる見通しです

営業利益

当期差：▲175 (-%)

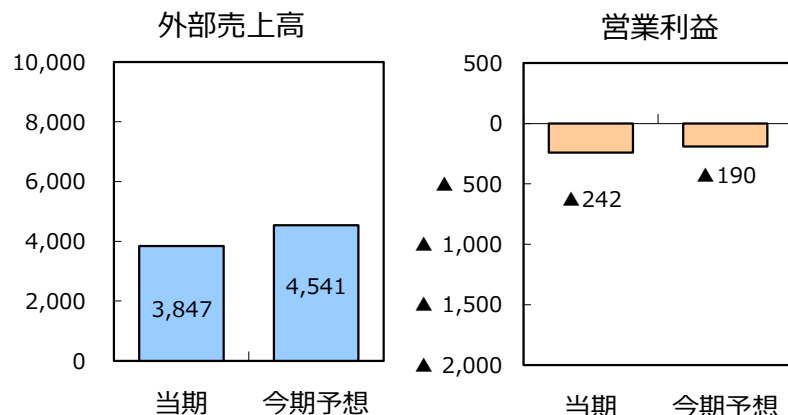
増収効果があるものの、電動化に係る新製品の開発およびサイバーセキュリティ対応等の先行投資負担があり減益となる見通しです

2023年3月期 事業別予想

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

新事業



※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。

売上高

当期差：+694 (+18.0%)

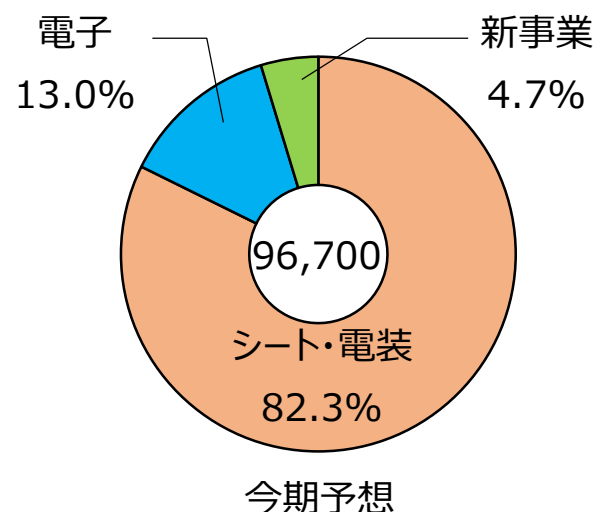
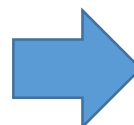
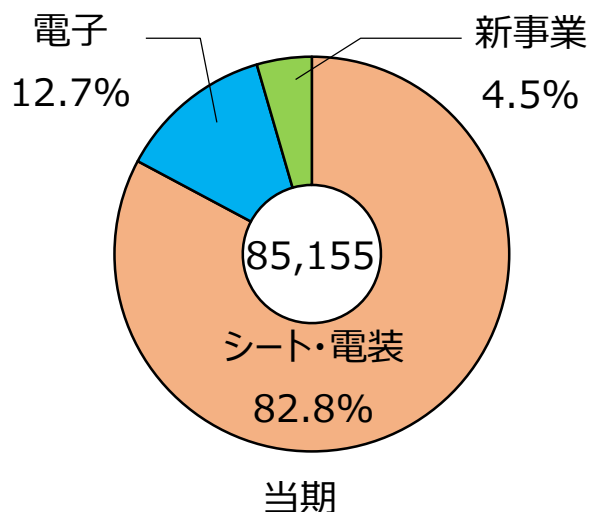
工作機械向けハーネス事業および画像処理事業での増加に加え、航空機・宇宙関連向けのハーネス事業の新型コロナ影響からの需要回復により増収となる見通しです

営業利益

当期差：+52 (-%)

増収効果により営業損失は縮小する見通しです

事業の種類別 売上高構成



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

設備投資

	前期 (22/3期)	当期 (23/3期)	増減額
国内	1,706	2,159	453
北米	1,204	228	▲ 976
アジア	1,037	1,223	186
合計	3,947	3,610	▲ 337

- ・国内
生産自動化設備の導入および電子製品へのサイバーセキュリティ対策により増加します
- ・北米
前期に新製品立ち上がりに伴う設備、金型費を計上しています
- ・アジア
新製品立ち上がりに伴い設備、金型費が増加します

減価償却費

	前期 (22/3期)	当期 (23/3期)	増減額
国内	1,902	1,433	▲ 469
北米	869	433	▲ 436
アジア	1,100	1,124	24
合計	3,871	2,990	▲ 881

- ・国内は今仙電機単体の減損損失の計上により減少します
- ・北米は金型の償却負担減により減少します

I . 2022年3月期 第4四半期決算概要

取締役 執行役員 堀部 修一

II . 2023年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員 堀部 修一

III . 事業トピックス

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

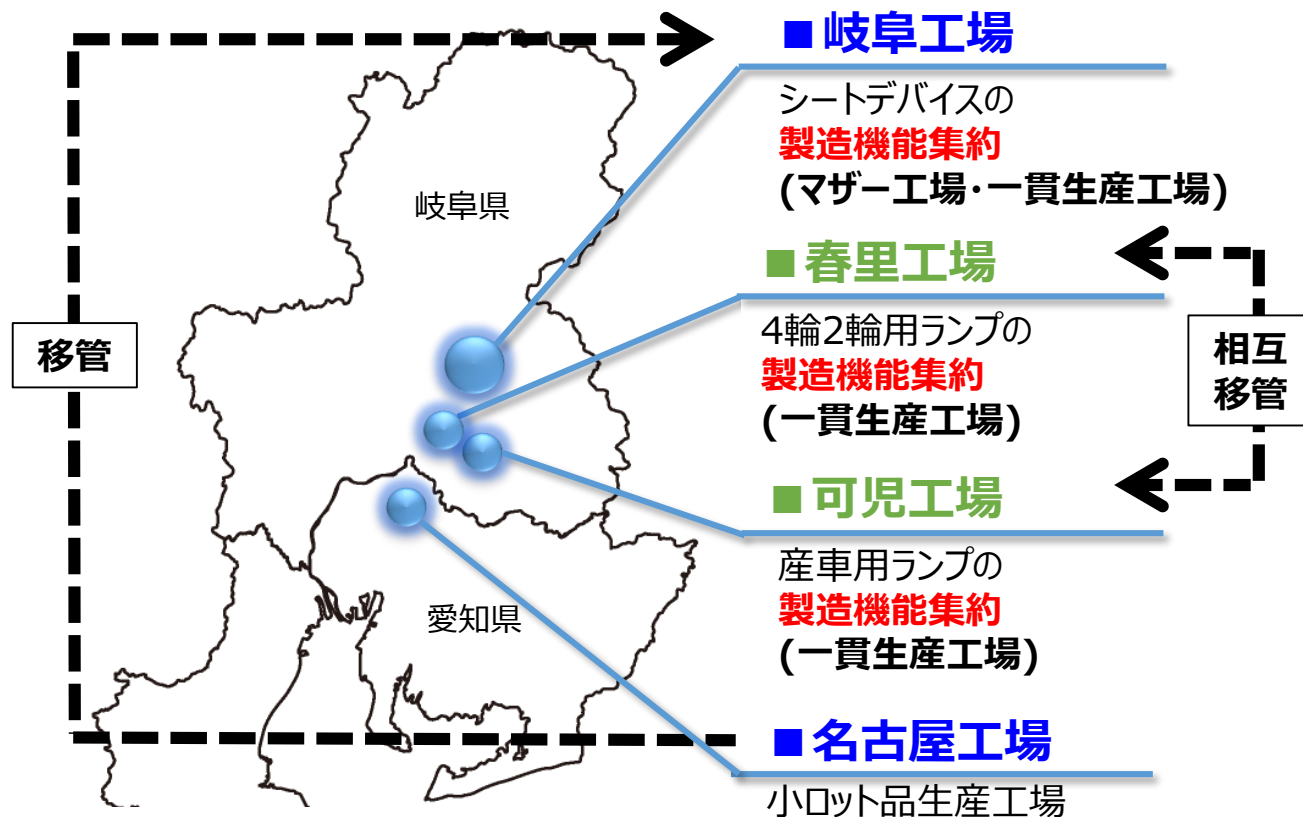
IV . 配当

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

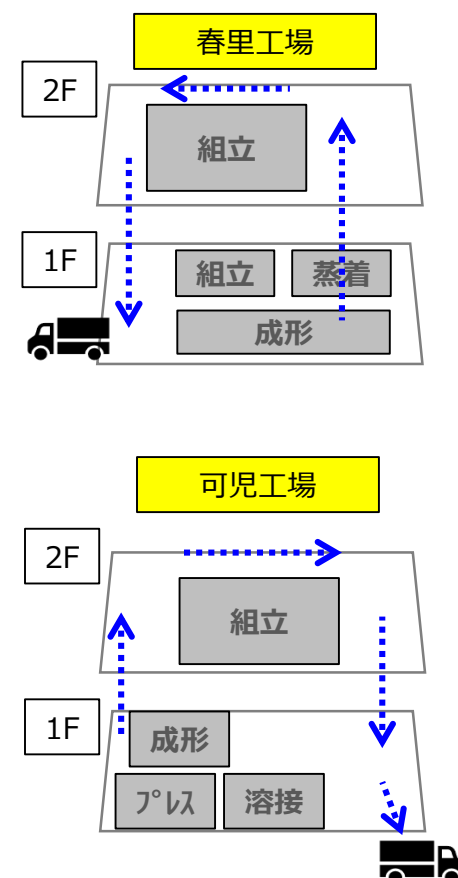
シート・電装事業

◆生産拠点再編の取り組み

以前より取り組んできました国内生産拠点の再編が完了しました。
老朽化した工場建屋を統廃合し、機能別に集約することにより、
工場間・工程間の物流コスト低減、管理費削減を実現しました。



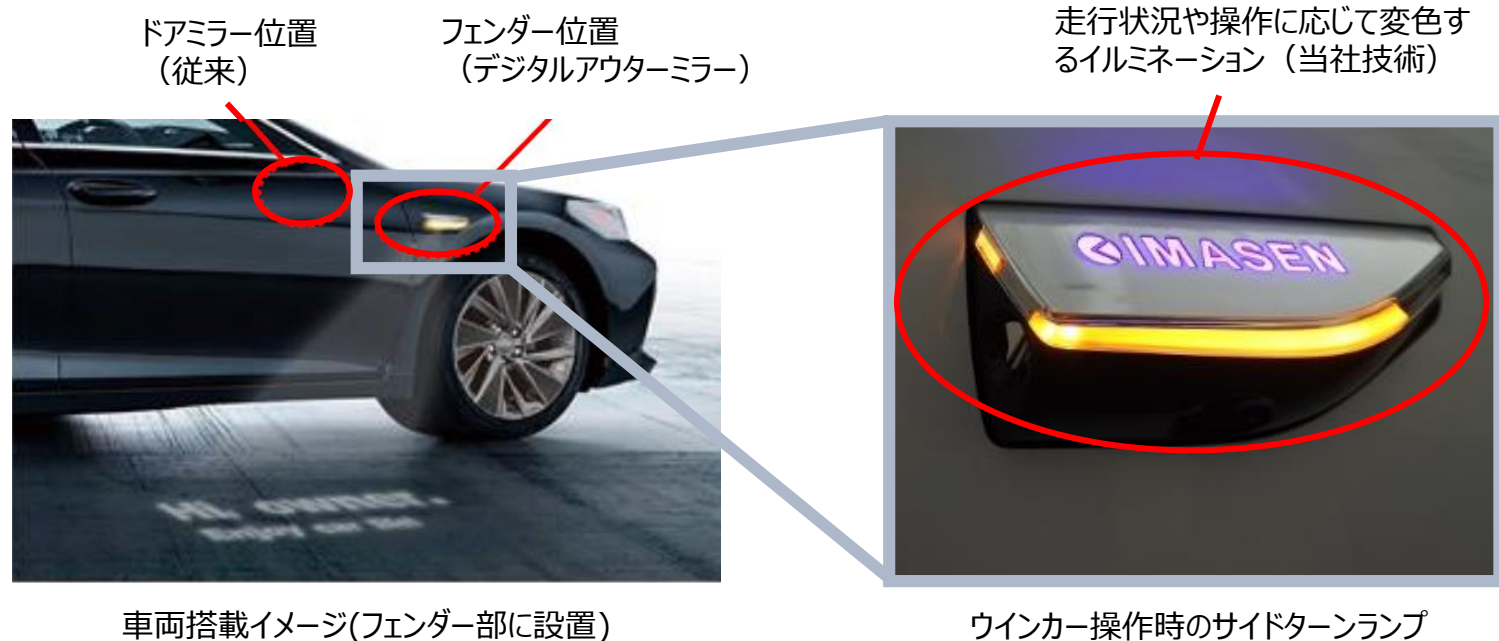
(再編後のレイアウト)



シート・電装事業

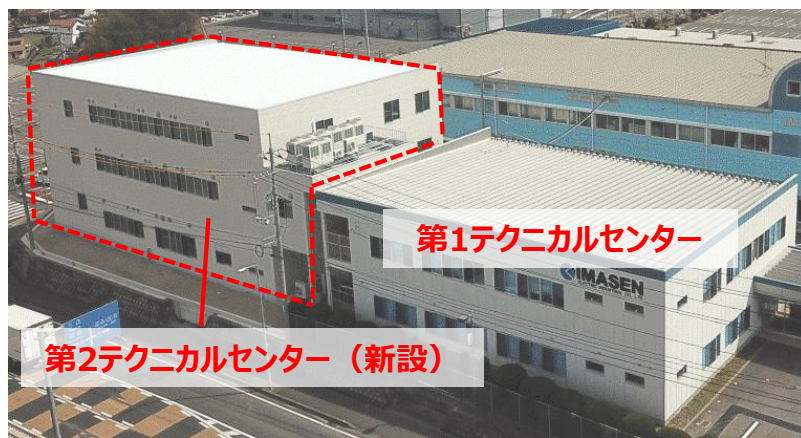
◆次世代自動車向けデジタルアウターミラー用ランプ開発

今回、次世代自動車向けデジタルアウターミラー用のランプ機能を開発しました。当社のLED配光技術およびレンズ素材による導光技術を用いて、ウインカー操作に合わせて発光するサイドターンランプのほか、開錠時のウェルカムランプ、周囲に合図や警告をするコーションランプ、そして自動運転の本格化に向けた自動運転ランプなどの多彩なイルミネーション機能による様々なコミュニケーションが可能で、車両のデザイン性向上にも貢献します。



電子事業

◆開発体制の強化 ～広島に第2テクニカルセンター新設～



電子事業の更なる拡大に向けて広島テクニカルセンターの拡充を図りました。

①エンジニアの増員

実績91名

(21年度目標90名、29年度目標146名)

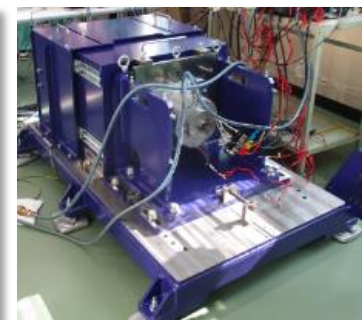
②各種試験設備の充実

電磁環境両立性評価やモータ駆動評価
温度試験設備の導入により開発スピード
が大幅にアップします

①エンジニア増員



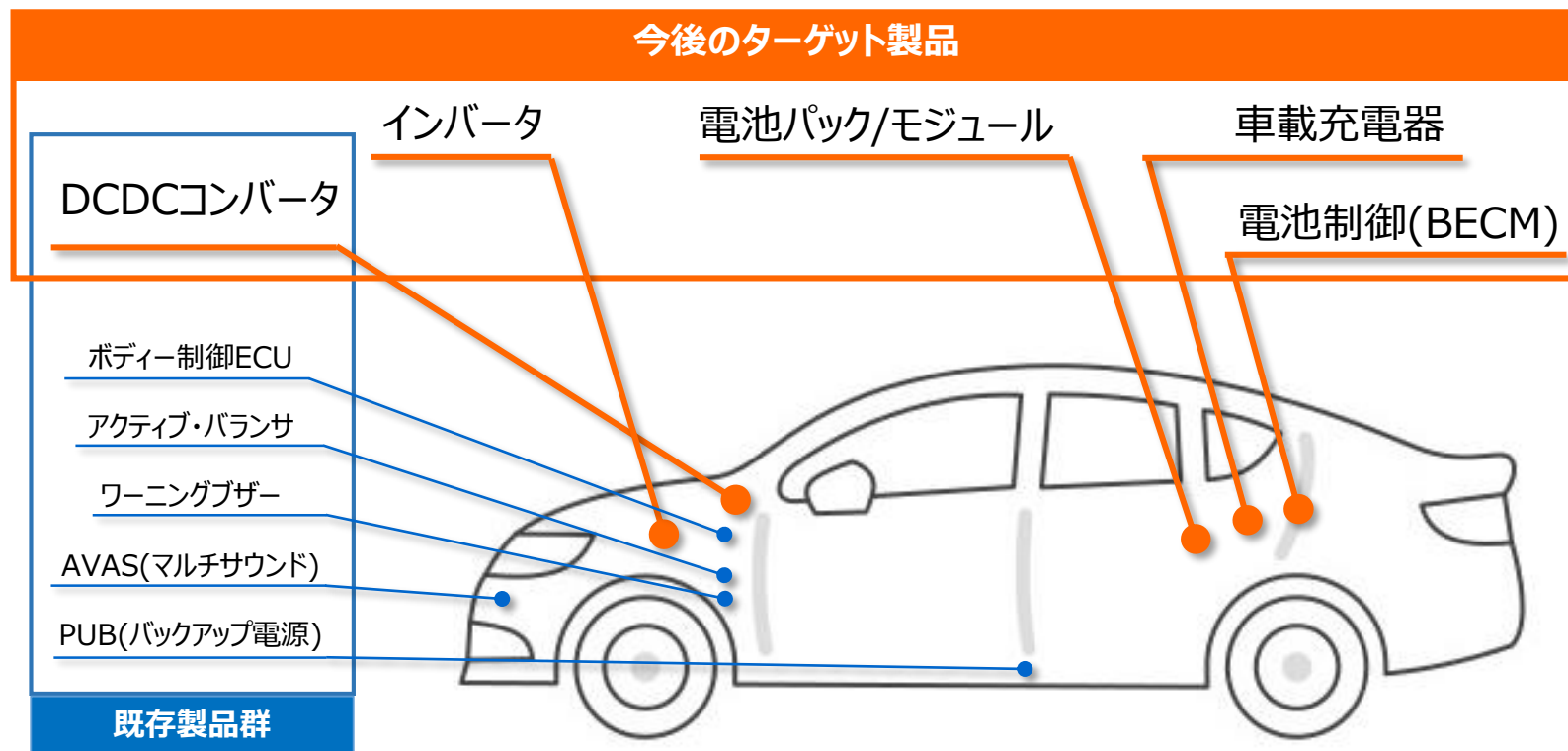
②各種試験設備



電子事業

◆高付加価値製品の拡大

今後のIMASENグループにおいて第2の柱である電子事業の更なる成長に向けた戦略として、主力製品の高付加価値な電気駆動関連製品への拡大に取り組んでいます。



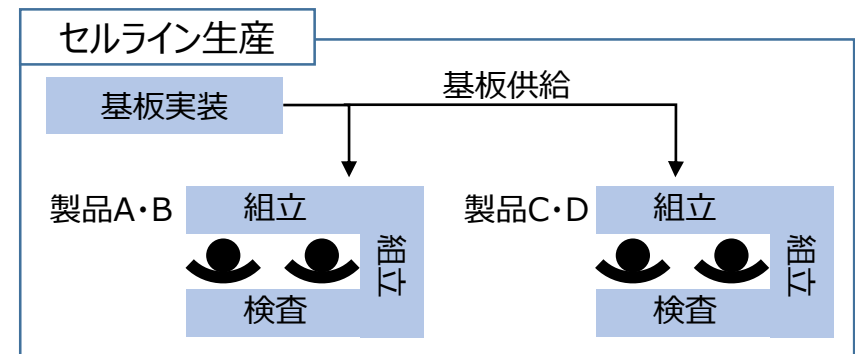
電子事業

◆コスト競争力強化・収益向上への取組み

電子ユニット組立ラインの新設にあたり、多品種混合生産ライン（マルチライン）を導入しました。省人化とともに多品種少量生産から、1品種多数生産までフレキシブルな対応が可能です。また、IoTによるトレサビリティ機能や、今後の無人生産ライン構築を見据えた基礎的な技術も備えています。



広島工場に新設されたマルチライン



新事業開発

◆歩行測定システムの開発

長期ビジョンにおいて第3の柱となる新事業の創出に向けた基本製品として、歩行測定システムを開発しました。

今後、2023年での製品化に向けて進めます。

システムの特徴

- ・身体への測定マーカ装着が不要で測定対象者の負担が少ない
- ・軽量、コンパクト



動画撮影による歩行測定



歩行の特徴を図・数値で可視化

新事業開発

◆「令和4年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞 ～「受動歩行原理に由来する無動力歩行支援機の開発」～

当社製品である無動力歩行支援機「a L Q（アルク）」の国立大学法人名古屋工業大学との共同開発において「令和4年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。

aLQ

令和4年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰
科学技術賞 受賞者一覧（開発部門）

部門	候補者氏名	所属・役職
開発	（筆頭者） 佐野 明人	名古屋工業大学大学院 工学研究科 教授
	植田 勝	(株)今仙電機製作所 新事業開発本部 技師
	森 悠子	(株)今仙電機製作所 新事業開発本部 担当



aLQ：バネと振り子の動きで、脚の振り出しをアシストします
フックとベルトで簡単に脱着できます

a L Qホームページ

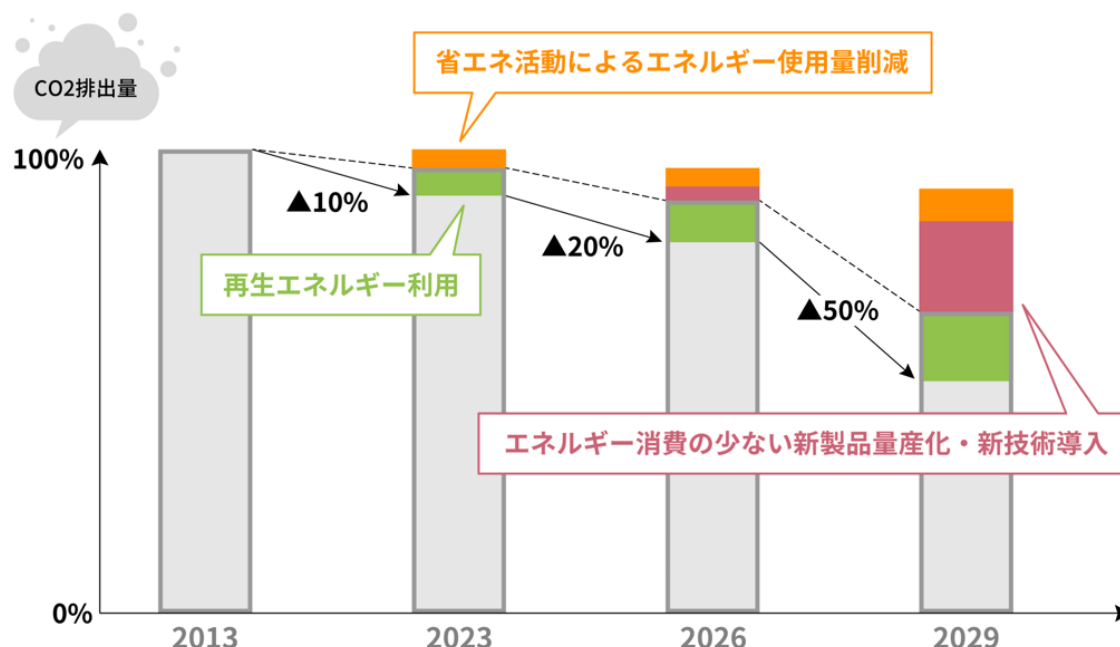
<https://www.imasen.co.jp/alq.html>

ESG経営の推進

◆CO2削減の目標



IMASEN Sustainable Plan 2030を策定し、全社活動にて
2030年で50%のCO2削減を目指して推進していきます。



□ エネルギー使用量

CO2排出削減
－目標－

フェーズ1

10%

フェーズ2

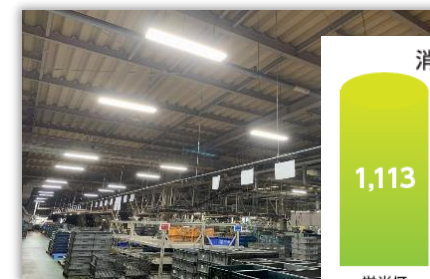
20%

フェーズ3

50%



太陽光発電により岐阜工場の
使用電力の20%～25%を供給



消費電力

単位：kWh

51%減

1,113

蛍光灯

566

LED

生産エリアのLED照明の導入完了
今後、事務所エリアへ展開予定

ESG経営の推進

◆新事業活用による地域社会への貢献



当社は一企業市民として地域社会への貢献を重要な取組と位置付けています。
2021年11月に開発した「歩行測定システム」や、株式会社今仙技術研究所の義足・
電動車いすなどを活用し、地域自治体と連携して社会貢献活動を推進しています。
本件は愛知県犬山市令和4年施政方針にも盛り込まれ、現在連携して準備を進めております。



犬山市などと産官連携を進めます
(左 犬山市長 山田拓郎 様)



市長や市の職員の方々に歩行測定システムやスポーツ義足、
小型モビリティを体験いただきました



ESG経営の推進

◆コーポレート・ガバナンス体制の強化

【取締役体制の見直し】

2021年6月の株主総会において3名の独立社外取締役（うち女性取締役1名）を選任しました。

これにより取締役全体の3分の1が社外取締役で構成されることとなり、**企業経営の客観性、透明性、多様性が向上**しました。

取締役体制（2021年6月株主総会終了時点）

代表取締役社長執行役員	櫻井 孝充	社外取締役	永井 康雄
取締役専務執行役員	佐竹 克幸	社外取締役	 亀山 恭一
取締役常務執行役員	丹羽 良仁	社外取締役	 和田 浩美
取締役執行役員	木村 学二		
取締役執行役員	山野上 耕一		
取締役執行役員	 堀部 修一		

※2018年7月より、代表取締役及び社外取締役、社外監査役で構成する指名・報酬諮問委員会を設置しております。

東証新市場区分への対応について

◆流通株式時価総額向上の基本方針の主な取組

企業価値の向上

▶中長期経営計画2029推進による事業の変革

- シート電装**
 - 国内工場再編 完了
 - 次期モデル向けコア製品開発
- 電子**
 - 開発人材と環境整備
 - 電気駆動システム開発
- 新事業**
 - 文部科学大臣 科学技術賞受賞
 - 歩行測定システム開発

▶顧客との関係強化、産学連携の強化

- シート : 協業活動
- 電子 : 共同開発
- 新事業 : 国内外の大学との連携

市場認知度・評価の向上

▶ESG経営、コーポレートガバナンス体制の強化

- 経営**
 - 社外取締役3名選任(うち1名女性)
取締役全体の3分の1となり
客観性、透明性、多様性が向上

▶IR、PR活動の充実

- HP刷新
(21年6月～)
- 社長ブログ
(22年1月～)
- 公式Twitter
(22年4月～)



※情報発信の機会を増やしPRを強化

「26年3月期末」までに流通株式時価総額の基準を満たすべく各種取組みを進めます

I. 2022年3月期 第4四半期決算概要

取締役 執行役員 堀部 修一

II. 2023年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員 堀部 修一

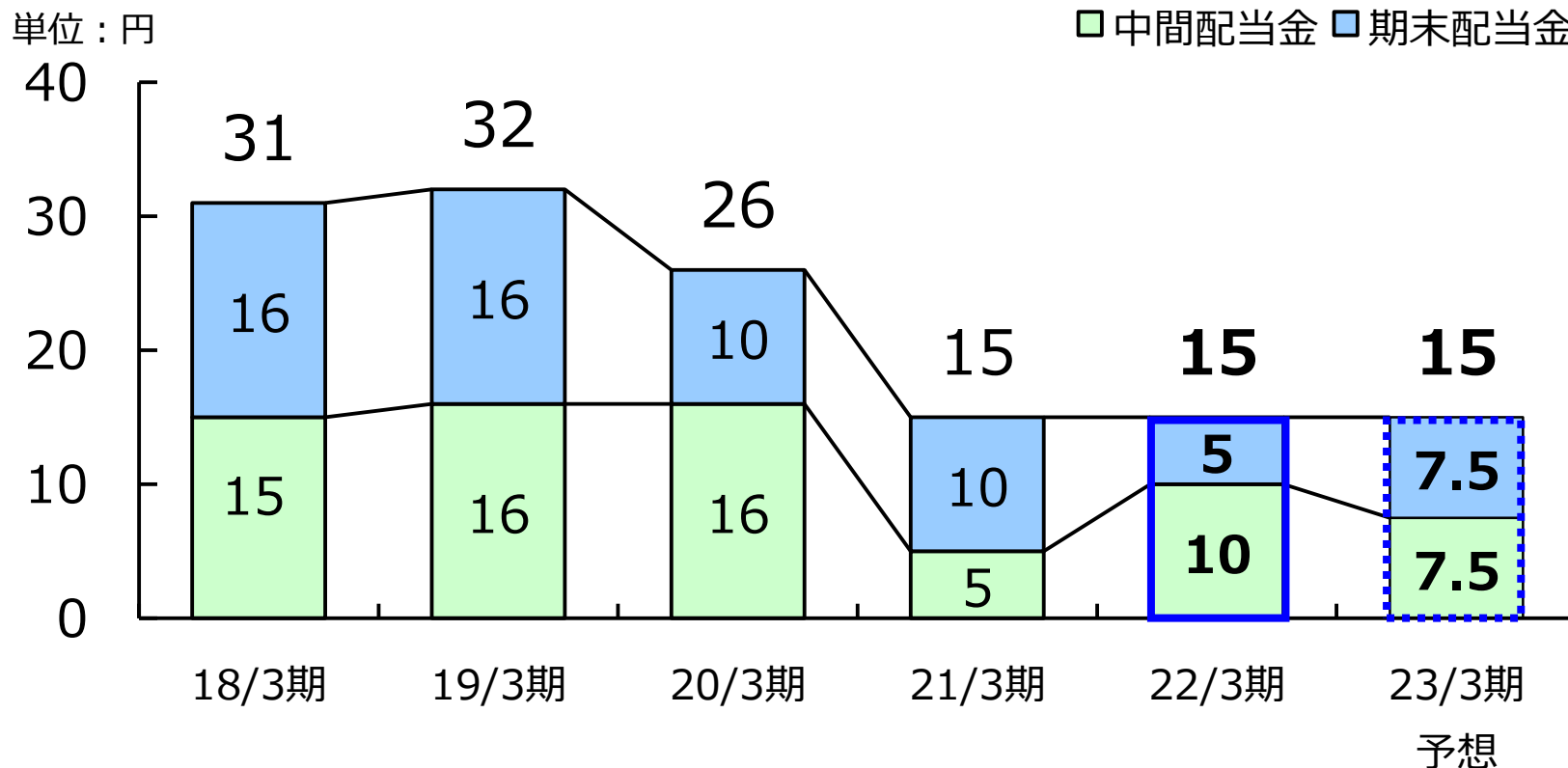
III. 事業トピックス

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

IV. 配当

取締役 社長執行役員 櫻井 孝充

Challenge to New Imasen



株主の皆様への安定的、継続的な利益還元を行う配当政策の基本方針に基づき、業績の内容を勘案し、期末配当金は1株当たり5円（年間配当金は1株当たり15円）とさせていただきます

23年3月期も、半導体不足や原材料・輸送費高騰など先行き不透明な状況ですが、配当方針の安定配当に基づき、年間配当金は1株当たり15円を予定しています

Trust & Challenge

Challenge to New Imasen

- ・本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所

グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>